

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1272201136		
法人名	有限会社 ツェルン		
事業所名	グループホーム・オアシス		
所在地	千葉県柏市柏下218		
自己評価作成日	平成23年2月14日	評価結果市町村受理日	平成23年4月21日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成23年3月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

北柏駅より徒歩15分の便利な地にあり、大学病院や老人保健施設が隣接している為、緊急時には高度な医療の受診が可能である。また周辺には柏公園、ふるさと公園、文化会館なども近く、自然豊かで緑が多い為晴天時に行っている散歩では四季の移り変わりを肌で感じる事ができる。建物は平屋建て全館バリアフリーの安全な設計になっており、約8畳の個室と日当たり充分な談話室、中庭からの光を取り入れた開放的な造りは、入居者及びご家族にも好評である。特色としては、夏季は毎日の入浴、三食手作りの食事には家庭菜園の無農薬野菜も利用している。また夏にはホーム敷地内から見える手賀沼花火大会に合わせて納涼祭を行うなど、家族参加の季節行事も行っている。行事の際は入居者にもお手伝い頂いて、スタッフと一緒に食事作りをしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム・オアシス」の施設内は物品が適切に収納されており、十分な介助スペースが確保され、入居者の安全に配慮した工夫がなされている。食事においては、旬の野菜や施設の菜園で収穫された野菜を活用し、素材にこだわり、すべて手作りで行われており、食に対する楽しみを支援している。各ユニットに設置されている談話室は明るく開放的で、入居者が思い思いにくつろげるような造りになっていると共に、入居者が家族・来訪者・職員とのコミュニケーションが楽しめる場所となっており、利用者の生活活性化に活用されている。開設当初に全職員で作成した理念「おだやかな笑顔と寄り添いあえる暮らしの提供」を掲げ、明るく温もりのある支援に取り組んでいる。また、職員の研修への参加も数多く行われており、意欲を持って働きやすい職場環境となっている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「おだやかな笑顔と寄り添いあえる暮らしを私たちの心で応援します」を理念とし、常に目に入る場所に掲示して意識するようになっている	「おだやかな笑顔と寄り添いあえる暮らしの提供」を主眼とした、施設独自の理念を掲げている。理念は開設時に職員全員で作られ、今日まで受け継がれている。理念は、事業所内に掲示されていると共に、新人研修等にて確認を行い、職員全員が理念を共有して実践に取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時に近隣の方々と挨拶を交したり、農作物の提供などがあるが、立地的に住宅街と離れている為地域の一員としての位置づけは難しい	地域住民とは外出時には挨拶を交わし、おすそ分けを頂く等の関係が築かれている。自治会に加入しており、地域行事への参加・施設行事への招待・ボランティアの受け入れ等を実施し、地域住民との交流が図られている。また、地域住民に対して、施設見学や介護相談を随時受け入れ、地域貢献にも努めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談窓口を設置し、認知症の方に限らずご相談を受けている。キャラバンメイトの資格を持つ従業員が複数いるので、今後は事業所から地域の方々に向けて発信していけると良いと思う。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年3回の運営推進会議ではその時々にはホームが取り組んでいる事などを報告相談し、ご家族の代表、地域の代表、地域包括支援センター職員の方からご助言頂いて事業所運営に役立てている	地域包括支援センター職員・民生委員・家族会代表・職員等を構成員として、年3回、運営推進会議を開催している。会議では施設の活動報告・事業計画の報告・質疑応答等を行ない、施設の理解促進に努めている。また、意見・情報交換を行ない、サービスの質の向上に努めている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	サービス、運営に関して疑問が生じた際には逐一ご相談するように努めている。また市の連絡会を通じて顔合わせの機会が多く、何でもご相談できる関係性を築けている。	施設運営に関する相談・業務報告・情報交換等を随時行い、連携を図っている。市職員による施設見学を受け入れ、相互に協力し合う関係が築かれている。また、柏市グループホーム連絡会を通じて、市の担当者と密に意見・情報交換等を行い、施設の課題解決に努めている。	

【千葉県】グループホーム オアシス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束廃止マニュアルを設置し、職員に周知徹底を図っている。施錠に関してはドアベルを付けるなどして工夫はしているが、ユニットによりご家族の希望もあり、施錠を行っている箇所がある。防犯上の観点からも施錠の必要性を感じる</p>	<p>身体拘束排除における施設方針を掲げていると共に、内部研修や新人研修を行ない、職員全員が身体拘束排除における意義を理解をしている。玄関においては、入居者家族の同意を得て施錠している箇所もあるが、ドアベルにて安全確保しながら、日中は施錠はせず、入居者の自由な生活を支援している。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>ホーム長が市の虐待防止委員を務めている事もあり、職員にはマニュアルを設置し周知徹底をしている</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見制度については現在数名の方が利用している。今後利用する方が増える事も予想されるので、職員には研修等を行い学ぶ機会を設ける予定である</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際には契約書の内容を1つずつ読み合わせて確認すると共に、ご家族の質問や疑問をお伺いして充分にご理解頂けるよう努めている</p>		
10	(6)	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族とは来所時や行事の際にご意見やご希望を伺い、頂いたご意見は会議等で職員と協議している。また、外部相談窓口を契約時にご案内すると共にホーム内にも掲示している</p>	<p>苦情・相談窓口を設置していると共に、家族の面会時や電話連絡時に直接意見・要望を確認している。挙がった意見・要望は職員会議にて周知・検討し、適切な対応を図っている。また、家族会やアンケート等を活用し、より多くの意見・要望の収集に努めている。</p>	
11	(7)	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に一度スタッフ会議を行っており、意見交換の場を設けている。職員から出た意見や要望は検討し可能な限り反映させている</p>	<p>会議・連絡帳等にて職員の意見や提案等を確認し、運営に反映させている。また、管理者が個別に職員と話す機会を設けており、意見や思いを確認するよう努め、できる限り職員の要望を取り入れながら、働き甲斐のある職場環境作りに取り組んでいる。</p>	
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>勤務表を作成する際には職員の休日の希望を聞き、無理の無い勤務になるよう努めている。今後人事考課等評価制度を導入し、職員ひとりひとりのやる気に繋がる工夫を考えている</p>		

【千葉県】グループホーム オアシス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市内の研修等に参加し、今年度は従業員の多くが臨床回想士の資格を取得した。月に一度の会議では看護師が中心となってホーム内での研修も行っている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の連絡会で企画されるスタッフ交流研修会に参加し、他のホームの職員との意見交換する機会を設けている。今後は相互訪問なども企画してもらい、サービス向上に繋がるようにしたい		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	特に初期は環境の変化による混乱、不安などが多く見られるため、常に気を配り、時間をかけて少しずつ慣れて頂けるよう配慮している		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時から、どんなに小さな相談にも耳を傾け、不安な事や要望等をお伺いし、信頼関係を築けるよう努めている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の相談時に聞き取り調査を密に行い、他のサービス利用の可能性も含めて柔軟な対応を心がけている。実際、他のサービス利用に繋がったケースもある		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存能力を活かせるように、得意な事などをお伺いしている。日常生活における家事などは比較のお元気な方に限られるものの、積極的にお手伝いして頂いている		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは常に連絡を取り合い、日常些細な事でもご報告しケアについてご相談している。家族とスタッフの両方で支えている事を意識して頂けるよう努めている		

【千葉県】グループホーム オアシス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>電話の取次ぎや、親しい方の面会、外出などに積極的に応じている。また、友人との手紙のやり取りや年賀状の作成など、関係の継続を支援している</p>	<p>入居者の生活歴・趣味・特技等を把握しており、一人ひとりの馴染みある生活習慣等に配慮した支援を行っている。入居者の知人や友人が気軽に立ち寄れるよう施設を開放すると共に、年賀状や手紙を活用する等、馴染みの関係継続に配慮している。また、家族との外出・外泊は自由となっており、家族との関係継続にも配慮している。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>全員で参加できるレクやお散歩などを行い、孤立しないように声掛けをして輪に入れるように支援している。ユニットによっては全体のレベル低下に伴い、利用者同士の関わりが難しくなっている現状がある</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所後も転居先に訪問したり、手紙でのやり取りがある。退所された方のご家族が訪問する事もあり、最近のご様子などもお知らせ頂いている。</p>		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>常にお話される事に耳を傾け、希望や意向の把握に努めており、思いを伝える事が困難な方は、行動や表情、言葉から推察してご本人の希望を汲み取るよう努めている</p>	<p>入居時に、本人・家族から生活歴・身体状況・意向等を確認し、記録している。また、必要に応じて他のサービス事業所から情報提供を受け、より詳細な情報の把握に努めている。入居後は、日々の会話や観察から思いや意向の把握に努め、その都度記録している。記録を基に会議等で検討し、常に入居者の意向に沿った支援の実施に努めている。</p>	
24		<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入所時にご家族、ご本人からこれまでの暮らし方やサービス利用等の聞き取り調査を行い、アセスメント表を作成している。アセスメントは職員全員が把握できるようにしている</p>		
25		<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>健康チェックを毎日欠かさずに行い、状態の変化が見られた場合は看護師に相談したりと迅速に対応している。何気ない会話の中でも変化などが無いが常に観察している</p>		

【千葉県】グループホーム オアシス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>毎月のスタッフ会議で全員でケース検討を行い、本人の状況に合わせた介護計画を作成している。作成した介護計画はご家族に確認して頂き、ご意見を反映させている。</p>	<p>入居者・家族の意向を踏まえ、職員間で検討の上、介護計画を作成している。必要に応じて主治医と相談を行ない、現状に即した介護計画の作成に努めている。定期的に目標の達成状況の確認・介護計画の評価・身体状況の確認をし、必要に応じて見直しも行っており、意向を反映させた介護計画の作成に努めている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日常の様子を細かく個人記録に記入し、特に大切な事は必ず連絡ノートに記入している。出勤したらまずノートを確認する事を義務付けており、情報の共有に努めている。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>暮らしの中で利用者に何が必要なのかを考え、見極めた上で、その時々でできる範囲で柔軟に対応している。現在、在宅の訪問マッサージのサービスを利用している方がいる。</p>		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>ボランティアの方が月に数回訪問して下さっている。入居者のレベル低下に伴い、参加型の催しには対応できない方が増えてきているが、できる限り楽しんで頂けるよう配慮している。</p>		
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>月2回の内科、週1回の歯科の往診があり、本人・ご家族のご希望を聞いてご利用頂いている。他に希望する医療機関がある場合はそちらを利用できるように支援している</p>	<p>協力病院以外に、希望のかかりつけ医の受診が可能になっており、緊急時や必要時には職員が通院の付き添いを支援している。定期的に内科医・歯科医の往診が実施され、適切な医療支援が行われている。協力病院とは緊急時・重度化における対応や医療面の相談を行なう等、協力体制が構築されている。また、非常勤の看護職員による健康・衛生管理・服薬管理が行なわれている。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>週に2回、各ユニット1回ずつ看護師が勤務し、その都度心身のチェックや往診時の対応をしている。入居者のレベル低下に伴い、今後勤務回数を増やす事を検討している</p>		

【千葉県】グループホーム オアシス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーの提供や、生活状況を詳しく伝え、退院時には看護師を中心に情報交換を行っている。入院時の様子や退院後の注意点などは病院から情報を頂き、スタッフ全員が把握できるよう努めている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	昨年の家族会で重度化、終末期に向けた説明会を行い、その後全家族との個別面接を行った。医療連携体制加算申請にあたり、ホームの方針をご説明し、署名を頂いている。また、終末期のケアについて有識者からご協力頂き、スタッフの研修にも力を入れている	重度化・終末期においては契約時に説明し、同意を得ている。必要に応じて家族・職員・医師等の関係者で話し合い、入居者・家族の意向に沿った支援を検討している。全職員にて情報を共有し、施設として出来る限りの支援に取り組んでいる。	重度化・終末期においては、職員全員が、施設としての力量を見極めながら、外部・内部研修を活用し、必要な知識の習得・理解促進に繋げ、入居者・家族の意向に沿った出来る限りの支援ができるよう、施設としての体制を整えて頂く事を期待します。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一度、消防署から応急救護の指導を受けているが、実際の急変時に対応できるか不安に思う職員も多く、今後は訓練回数を増やして更に実践力を身に付けられるよう努めていきたい		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	市の連絡会主催の合同の消防訓練に加え、ホーム内での避難訓練も定期的に行っているが、夜間の避難には不安があるのが現状である。ホームの立地上、地域との協力体制を築く事が難しく、今後の課題としたい	スプリンクラー・火災報知期・通報器等が設置されていると共に、緊急時・災害時マニュアルが整備され、全職員に会議・研修等を通して周知している。消防署の協力により、年2回消防訓練・消防研修が実施されており、非常災害時に備えている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム職員の行動指針に記載し、スタッフに周知徹底するよう努めている。一人ひとりに合った声掛けや対応を行っている	接遇・プライバシーの保護のマニュアルを作成し、職員全員に研修を実施している。入居者の声掛け・介助・誘導方法に注意を払い、プライバシーの配慮に心掛けていると共に、入居者の尊厳の尊重にも取り組んでいる。また、個人の書類等は事務所にて保管し、個人情報保護を図っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者の話に耳を傾け、スタッフに何でも話せる信頼関係を築くように努めている。自己決定が難しい場合は、本人の希望を可能な限り汲み取る努力をしている。一対一で話したい場合は自室で話しを聞くなどの配慮もしている		

【千葉県】グループホーム オアシス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決められた時間割で過ごす事はなく、毎日の生活は一人ひとりが自分のペースでその日の気候や気分によって過ごせるよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で洋服を選ぶ事ができる方には好きな洋服を選んで着て頂いている。困難な方でもスタッフが声掛けし、その時々気候にあったものを選べるよう支援している。訪問美容室も利用して頂いている		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ユニットによってはお手伝いのできる方に無理のない範囲で配膳等のお手伝いをお願いしている。メニューを相談したり、誕生日の際にはご希望に応じた献立を計画するなどして楽しんで頂けるよう配慮している	入居者の希望や能力に応じて、準備・調理・片付け等を職員と共同で行っている。献立においては、入居者の希望や嗜好を考慮しながら、当日料理担当の職員が作成している。また、菜園で採れた野菜や旬の物を取り入れる等、楽しい食卓作りに努めていると共に、器や盛り付けに工夫を凝らしており、食に対する様々な楽しみを支援している。その他にも、定期的に行事を企画しており、外食会の実施や特別食の提供を行ない、入居者の生活の活性化に繋げている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表に記入し、偏りの無い食事作りを心がけている。水分には十分に気をつけ、こまめな水分摂取を行うと共に、摂取量の少ない方は記録するなどして確認できるように対応している		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕に必ず口腔ケアを行い、能力に合わせて見守り介助をしながら歯磨き・義歯洗浄をしている。週に1度歯科の往診があり、異常のある場合は受診が可能。衛生士によるブラッシング指導や定期的な診察も行っている		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを記録し、個人に合った声掛け、トイレ誘導を行っている	排泄チェックリストを活用しながら、排泄パターンを把握しており、排泄の自立に向けた支援を行っている。夜間は声掛けやポータブルトイレの活用を行っており、排泄の自立に向けた支援を行っている。便秘カレンダーを活用し、職員と看護師が相談しながら、適切な排泄コントロールが行えるように連携を図っている。	

【千葉県】グループホーム オアシス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録をとり、スムーズな排便を促せるよう対応している。また、こまめな水分摂取や適度な運動、乳製品・野菜の摂取なども心がけている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夏場は毎日、冬場は隔日の入浴を行っており、個人個人のタイミングに合わせた入浴を心がけている	入居者の希望に応じて、時間・回数等、柔軟に対応している。必要に応じて部分浴・シャワー浴・清拭等を実施し、入居者の清潔保持に努めている。また、浴室は十分な介助スペースが確保されている他、予備浴槽が設置されており、身体状況に合せた支援が行えるよう工夫されている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々に応じて、昼寝を勧めて休んで頂いたり談話室など休息できるスペースを設けて思い思いに休めるよう配慮している。睡眠時には施錠しないと安心できない方などには入眠後に開錠するなど、個別に対応している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬のファイルや手帳があり、種類や作用が分かるようになっている。誤薬を防ぐ為、看護師が管理し、薬カレンダーを作成し利用している		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	可能な限り、できる範囲で配膳や掃除のお手伝いをして頂き、役割を持つ事で生活に張り合いを持てるよう配慮している。ユニットによっては難しい状況もあるが、散歩や外出などで気分転換を図る機会も設けている		

【千葉県】グループホーム オアシス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>レベル低下により、ユニット全員での外出が難しくなっているため、数名ずつの個人外出、外食を定期的に行っている。また、年に1度企画される連絡会での春のバス旅行に参加し、遠出も可能になった。</p>	<p>入居者の希望・体調・天候に応じて、毎日散歩等の外出支援が行われている。定期的に外出行事を企画・実施しており、戸外に出掛ける機会を設けている。また、柏市グループホーム連絡会が企画するバス旅行等に参加し、外部の人々との交流も支援している。その他にも、入居者個々の身体能力・希望・習慣に応じて、馴染みの美容院や買い物・初詣等への外出に対応しており、一人ひとりが外出を楽しめるよう支援している。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>以前にトラブルがあった経緯があり、現在ではホームで立替払いを行っている。外出の際や、お散歩時にスタッフ付き添いの元、支払いをしてもらう機会を作っている</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話や手紙のやり取りを希望された場合はすぐに対応している。また、家族や友人からの電話も取り次ぎ、お話してもらっている。手紙はお返事を書いてもらうように声掛けし、年賀状はスタッフが見守りながら作成している。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>談話室や食堂は中庭からの光が入り、明るい空間になっている。玄関や談話室、食堂には季節感のある飾りや、花などを飾っている。浴室、トイレ等は清潔感に気をつけ、温度差にも配慮している</p>	<p>施設内はバリアフリーとなっていると共に、リネン庫や収納庫が設置され、十分な収納スペースを擁す事により、玄関・廊下・トイレ等に十分な介助スペースが確保されており、入居者の安全面に配慮した造りとなっている。各ユニットに談話室が設置され、職員・友人・家族等と気軽に過ごす事が可能となっており、様々な人とのコミュニケーションツールとなっている。また、施設内に行事等の写真が掲示されており、入居者と職員が楽しみを共有できるよう工夫している。</p>	<p>食堂に隣接した広い和室は、落ち着いた和の空間となっており、馴染みの場所となっている。入居者の安全面を考慮し、現在は使用頻度が減っているが、今後は、入居者が家族・友人と一緒に食事等をして交流が深まるような場所として、和室の活用の検討を希望します。</p>

【千葉県】グループホーム オアシス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室などの共有スペースで、お茶を飲んだり気の合う仲間とすごせるようになっている。日当たりの良い場所で、日光浴をしたりと思いい思いに過ごされている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使用していた家具や思い出のある物を使用させていただき、心地よい空間を作れるよう配慮している。火気を除き、仏壇などを持ってきている方も多い。	入居者・家族の希望に応じて馴染みの家具等を持ち込む事が可能となっており、居心地良く生活ができるよう配慮している。また、畳敷きにする等、利用者が馴染みの生活スタイルを選択することが可能となっており、生活歴に合せた居室作りが行われている。全居室にエアコンが設置されており、適切な空調管理がなされていると共に、洗面台・鍵が設置されており、入居者のプライバシーにも配慮している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はすべてバリアフリーになっており、浴室、トイレ、廊下には手摺がある為、なるべく自分の力で移動できるよう配慮している。各所にネームプレートがあるが、分かりにくい方には立体のプレートを作るなど工夫している。		